

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																									
近畿コンピュータ電子専門学校		昭和61年3月14日		平野 考一		〒 593-8326 (住所) 大阪府堺市西区鳳西町3-712-1 (電話) 072-265-6666																																									
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																									
学校法人ヒラタ学園		昭和61年3月14日		平田 勇		〒 593-8326 (住所) 大阪府堺市西区鳳西町3-712-1 (電話) 072-265-6666																																									
分野		認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度																																					
工業		情報処理専門課程		クリエイタ学科(ゲームプログラマ専攻)		平成15(2003)年度		-		平成28(2016)年度																																					
学科の目的		ゲーム業界で必要とされる、基礎的な知識、技術をもとにスキルを磨き、より高度な技術・知識、社会として必要なチームワークやコミュニケーションを有する技術者を育成する事を目的とする。																																													
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		取得可能な資格:〇言語プログラミング能力認定試験 中退率:13.0%(主な理由:学業不振、進路変更)																																													
修業年限		昼夜		全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義		演習		実習		実験		実技																																	
2年		昼間		※単位時間、単位いずれかに記入 1,840 単位時間 単位		600 単位時間 単位		1,504 単位時間 単位		単位時間 単位		単位時間 単位		単位時間 単位																																	
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)																																									
80 人の内数		53 人		0 人		0 %																																									
就職等の状況		<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>:</td><td>8</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>:</td><td>6</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>:</td><td>6</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>:</td><td>5</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>:</td><td>75</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>:</td><td>83</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>:</td><td>75</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td>:</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>2名が就職斡旋辞退 (令和 5 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 株式会社エーフォース、株式会社ミックウェア、株式会社シンワ・アクティブ</p>										■卒業者数(C)	:	8	人	■就職希望者数(D)	:	6	人	■就職者数(E)	:	6	人	■地元就職者数(F)	:	5	人	■就職率(E/D)	:	75	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	83	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	75	%	■進学者数	:	0	人	■その他	:		
■卒業者数(C)	:	8	人																																												
■就職希望者数(D)	:	6	人																																												
■就職者数(E)	:	6	人																																												
■地元就職者数(F)	:	5	人																																												
■就職率(E/D)	:	75	%																																												
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	83	%																																												
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	75	%																																												
■進学者数	:	0	人																																												
■その他	:																																														
第三者による学校評価		<table border="1"> <tr><td>■民間の評価機関等から第三者評価:</td><td colspan="10">無</td></tr> <tr><td>※有の場合、例えば以下について任意記載</td><td colspan="10"></td></tr> <tr><td>評価団体:</td><td colspan="3">受審年月:</td><td colspan="7">評価結果を掲載したホームページURL</td></tr> </table>										■民間の評価機関等から第三者評価:	無										※有の場合、例えば以下について任意記載											評価団体:	受審年月:			評価結果を掲載したホームページURL									
■民間の評価機関等から第三者評価:	無																																														
※有の場合、例えば以下について任意記載																																															
評価団体:	受審年月:			評価結果を掲載したホームページURL																																											
当該学科のホームページURL		<a href="https://kincom.ac.jp/profile/game/">https://kincom.ac.jp/profile/game/</a>																																													
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,104 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table>										総授業時数	2,104 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																						
総授業時数	2,104 単位時間																																														
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																														
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																														
うち必修授業時数	0 単位時間																																														
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																														
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																														
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																														
教員の属性(専任教員について記入)		<table border="1"> <tr><td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td><td>3 人</td></tr> <tr><td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>計</td><td>3 人</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td><td>0 人</td></tr> </table>										① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計	3 人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	0 人																						
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3 人																																														
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人																																														
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																														
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																														
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																																														
計	3 人																																														
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	0 人																																														

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ゲーム業界に出現する新しい技術、製品に対応でき、業界に即戦力となる技術者を育成するために、ゲーム業界に精通する専門家やゲーム制作企業・ゲームミドルウェア制作企業と連携し教育課程の編成、授業科目の開設や授業内容・方法等の改善・工夫、仕事をするために必要となる基礎力、業界の動向など、実践的・専門的な教育を実施するため、協議・検討することを基本方針とする。また、就職先企業・卒業生に対し定期的にアンケートや訪問を行いゲーム業界に必要な知識・技術・技能が満足されているのか、なにが不足しているのか把握し次ぎの課題として検討することも基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会の委員としては学校内委員と企業関係者の委員から構成され、よりよい教育課程の編成を協力しておこなうものと位置付けている。

「教育課程編成に関する意思決定の課程」

①まず学内委員により大まかな科目全体の割り当てを決定する。

②企業関係者より、業界の動向・新技術・企業に即必要な技術を伺い、次年度の教育課程編成方針を決定する。

③学内委員により、詳細な内容の教育課程の案を作成し外部委員に図り、次年度教育課程を決定する。

④前期終了後、学内委員により現時点の問題点・課題等を集約し、後期にて改善できるもの、次年度にて改善できるものを洗い出し、委員会にて討議決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
篠原 たかこ	公益財団法人画像情報教育振興協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
後藤 誠	株式会社ゲーム・フォー・イット	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	②
木村 健史	株式会社FULL	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
平野 考一	近畿コンピュータ電子専門学校 校長	-	-
脇坂 慎也	近畿コンピュータ電子専門学校 クリエイタ学科	-	-
今村 和江	近畿コンピュータ電子専門学校 キャリアサポート課	-	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

原則として、2月と9月に実施するものとする。

必要に応じ社会情勢の変化や、就職状況などにより、発生した問題点・課題を委員に情報収集する。

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月28日 13:00～15:00

第2回 令和5年3月7日 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・アニメーション実技試験があるので、学生にはチャレンジして欲しい。
- ・オンライン授業でのタスク管理についてのツールは、必須になってくるので、適宜指導して欲しい。
- ・AI学習におけるライブラリ使用について
- ・シリアスゲームの現状について
- ・ゲーム制作に関する工数を導き出す内容について
- ・学生のモチベーション及び学力向上の取り組み(業界人セミナー)について

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係		
<p>(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針          業界が求める即戦力となる人材を育成するため、企業と連携し、実践的・専門的、時代に即した実習・演習をとりおこなうことを基本方針とする。</p> <p>①最新の業界動向・専門技術に関しては、業界企業から専門家を講師に招いて授業を行う。          ②現場実習（インターンシップ）に関しては、ゲーム業界、その他関連企業の受け入れ先を確保し実習指導をおこなってゆく。</p>		
<p>(2) 実習・演習等における企業等との連携内容          ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記          実習・演習前に当校の学科長と企業の講師および実習現場責任者と打ち合わせを行い、実習内容・学生の報告内容・学習成果について定める。実習期間中は学生の実習実施状況や能力取得状況を把握できるよう、企業・学校との情報交換をおこなう。実習終了後は先方企業の講師・現場責任者と学習成果の評価をおこなう。</p>		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
CG概論	CGの技術に関する基本的な理解を目指す。アニメーション、映像、ゲーム、VR、AR等の、ソフトウェア開発、カスタマイズ、システム開発、作品制作を行う為の技術を習得する。	Plus Project
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針          ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記          ゲーム業界およびその他関連企業より講師を招き、最新の業界・技術動向を把握し学生の指導に活かしてゆく。また、現時点において必要であると認められる技術、および資格に関しては積極的に取得するべく、企業講習会・セミナーに参画することを基本方針とする。</p>		
(2) 研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	CompTIA アカデミックサミット2022	連携企業等: CompTIA日本支局
期間:	令和4年8月26日	対象: 教育担当者
内容	社会構造変化・DX時代に求められるIT知識についての講義。最新のサイバーセキュリティー状況について。	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	大阪司法書士の法律講座	連携企業等: 大阪司法書士会
期間:	令和4年7月29日	対象: ヒラタ学園教員
内容	学生にとって身近であるSNSや、インターネット上の中傷について事例を交えた講座。	
研修名:	要支援学生の就職・キャリア支援について考える	連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会
期間:	令和4年9月21日	対象: 教員
内容	要支援学生のキャリア支援の有用な新機関に関数る講義。及び、参加者が連携している支援機関についての情報交換など。	
(3) 研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	4K時代に対応する人物モデル制作時短術	連携企業等: ダイキン工業株式会社
期間:	令和4年10月6日	対象: 開発者
内容	ディテール期間の短縮するため、作り込まれたベースモデルを「ZWrap」を用いて、制作したモデルに効率的なラップをする事について	
研修名:	ゲームローカライズから読み解く	連携企業等: 株式会社モリサワフォント
期間:	令和4年10月7日	対象: デザイナー
内容	書体デザインの基礎知識について。使う用途についてどのようなデザインを選べばよいのか。	
研修名:	GTMF	連携企業等: GTMF運営委員会
期間:	令和5年6月30日	対象: 開発者
内容	ゲーム開発に関するツール・ミドルウェアについて	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 発達障害の基本理解について 連携企業等： 堺発達障害者支援センター  
 期間： 令和5年8月22日 対象： 教職員  
 内容： 発達障害についての理解と対応・支援方法について

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は学校関係者により構成された評価委員会が、自己評価の結果について評価することを基本としておこなう評価であり、評価という共同作業を通してお互いに理解を深めることを目的とする。自己評価は、学校が自身の教育活動を振り返って成果や課題を分析し、それに基づいて改善案を検討することであり、学校関係者それぞれの立場、視点から意見をいただき、自己評価の客観性・透明性を高め、よりよい学校をつくることを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	(7) 学生受け入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校自己評価の結果をもとに意見交換が行われ、今後の職業教育について等、教育改革や社会変化に対する取り組み、技術教育や就職についての意識付けや産業界との連携の在り方、学生に対しての成長支援など、多様な観点から意見を得た。

これら意見の活用について、各学科内部において評価内容などを再検討し、以下の取り組みを決定した。

- ・オンライン授業について録画されているのか。  
→必要に応じて授業の録画を行う事にした。
- ・職種と血液型の因果関係はあるのか。  
→アンケート形式で調査をする事にした。
- ・自分の成長を積極的に臨む人材育成をお願いしたい。  
→業界人セミナーや卒業生からの講話を行うなど、業界について学生に知ってもらう機会を増やす取り組みを決定した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
中西 良雄	堺電気工事工業協同組合	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	団体
仲田 浩和	都築電機株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業
高野 信一郎	タカノアドブレインマーケット	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業
楠瀬 修一	株式会社ソフテム	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://kincom.ac.jp/public/>  
 公表時期: 令和5年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の学校関係者に当校がどのような学校であり、どのような状況にあるのか、学校全体の状況を把握できるようにすることが重要であり、そのためには、当校の基礎的情報を含めた必要な情報が、当校自身から関係者等にわかりやすい形で、自発的・積極的に示すことを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標
(2)各学科等の教育	学校運営
(3)教職員	学校運営
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学修成果
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生の受け入れ募集
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	なし
(11)その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ))

URL: <https://kincom.ac.jp/public/>  
公表時期: 令和5年9月30日

授業科目等の概要

(情報処理専門課程 クリエイタ学科 (ゲームプログラマ専攻))																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			C言語	C言語によるプログラミング実習。基礎的な文法を理解し、プログラムの基本を学ぶ。	1前	56	4	○			○	○			
	○			C++	C++言語によるプログラミング実習。C言語とC++の違いを学び、C++の基礎的な文法を理解する。	1前	64	4	○			○			○	
	○			ゲーム開発総合	ゲームプログラミングに必要な知識の演習とその解説を実施する。	1通	128	8	○			○	○			
	○			プレゼンテーション演習	様々なテーマから企画を考え、パワーポイントなどを利用し、プレゼンテーションを行う。	1通	128	8	○			○	○			
	○			2Dゲームプログラミング	ジャンルを問わず、オリジナル2Dゲームを完成させる。	1後	64	4	○			○	○			
	○			ライブラリ制作	DirectXを活用したオリジナルライブラリの作成を行う。描画処理、音声処理の基礎を学ぶ。	1後	64	4	○			○	○			
	○			就職対策 I	就職活動作品として簡単なオリジナル2Dゲームを完成させる。	1後	64	4	○			○	○			
		○		インターンシップ	在学中に一定期間、自分の専攻や将来のキャリアに関連した企業に出向いて、実際業務に携わる体験型の職業研修に参加する。	1通	40	2	○			○	○			
		○		C#	C#によるプログラミング実習。基礎を中心に必要に応じて、ゲーム開発用のミドルウェアを使用する。	1前	32	2	○			○	○			
		○		C言語 (選)	C言語によるプログラミング実習。基礎的な文法についての練習課題を行う。	1前	32	2	○			○	○			
	○			ゲーム数学	ゲームプログラミングで使用される数学の基礎的な知識を習得する。三角関数、ベクトル、微積分など。	1通	56	4	○			○	○			
	○			フローチャート理論	フローチャート図の理解を目的とする。再起、探索等の代表的アルゴリズムについての解説。	1前	28	2	○			○	○			
	○			ゲームアルゴリズム	ゲームプログラミングで使用されるアルゴリズムについての解説。当たり判定、スクロールなど。	1前	28	2	○			○	○			
	○			CG概論	CGの技術に関する基本的な理解を目指す。アニメーション、映像、ゲーム、VR、AR等の、ソフトウェア開発、カスタマイズ、システム開発、作品制作を行う為の基礎知識を習得する。	1通	112	8	○			○			○	○

15	○		キャリア対策Ⅰ	職業とキャリアについて学習。履歴書、自己PR制作など就職活動に必要な書類作成や面接練習も行う。	1通	56	4	○		○	○							
16	○		C言語試験対策	C言語資格検定合格を目指す。他科目と連携した内容で、C言語についての理解をより深める。	1通	56	4	○		○	○							
17	○		課外授業	社会性を身に付ける。与えられた担当について、責任をもって最後までやり遂げる責任感を身に付け、集団生活における責任感を養う。	1通	16	1	○		○	○							
18		○	最新技術概論	最新の技術情報について学び、新しい技術への知識の幅を広げる。	1前	32	2	○		○	○							
19		○	試験対策	ITパスポート資格検定合格を目指す。知識の習得と、試験演習問題を実施する。	1前	32	2	○		○	○							
20	○		C言語Ⅱ	C言語によるプログラミング実習。簡単な応用を交えながら基礎的な文法を理解する。	2前	56	4	○		○								○
21	○		就職対策Ⅱ	就職活動時に必要となる作品制作を行う。	2前	56	4	○		○	○							
22	○		3Dライブラリ制作	3Dプログラムの基礎として、モデル表示プログラムを制作する。アニメーション処理をプログラムにて実装する。3Dゲーム向けのライブラリを制作する。	2前	64	4	○		○	○							
23	○		2D運動プログラム	2Dゲームプログラムにおいて必要となる運動処理の解説、プログラムの実装。	2前	56	4	○		○	○							
24	○		卒業制作	卒業制作として、集大成となるオリジナルゲームの制作を行う。	2後	64	4	○		○	○							
25	○		3Dゲーム開発	自分で制作したライブラリを使い、オリジナル3Dゲーム開発を行う。	2後	64	4	○		○	○							
26	○		アプリケーション開発	Unityを利用し、オリジナルアプリケーションの制作を行う。必要に応じて、JavaやC#を使用する。	2後	56	4	○		○	○							
27	○		3D運動プログラム	3Dゲームにおける当たり判定などの衝突アルゴリズムの学習。	2後	64	4	○		○	○							
28	○		グループワーキング	チームによるゲーム制作を通し、コミュニケーション能力や個々のスケジュール管理を学ぶ。	2通	128	8	○		○								○
29	○		ゲームプログラミング	個人でオリジナルのゲーム制作を行う。スケジュール管理なども自分で行う。	2通	128	8	○		○	○							
30	○		実践プログラム	Windows Formsを使用し、ゲーム開発に使用するツールの制作を行う。目標成果物として、マップエディタやパラメータ設定ツールなどを想定。	2前	32	2	○		○	○							
31		○	シェーダプログラム	DirectX12を用いて、3Dモデルに色や模様を付け方を学ぶ。シェーダプログラムの基礎を学ぶ。文法、活用方法など。	2前	32	2	○		○	○							

32		○	2D運動プログラム実習	物理エンジンを用いたプログラムの理解。 2D運動プログラムをオリジナルライブラリに実装させる。	2 前	32	2		○		○		○		
33	○		3D理論	3D空間における描画方法とその理論を学習する。実習授業と合わせて進める事で理解を深める。	2 通	56	4		○		○		○		
34	○		ゲーム数学Ⅱ	3Dプログラムで必要となる数学および物理について学習する。	2 通	56	4		○		○		○		
35	○		キャリア対策	職業とキャリアについて学習。履歴書、自己PR制作など就職活動に必要な書類作成や面接練習も行う。	2 通	56	4		○		○		○		
36	○		課外授業	社会性を身に付ける。 与えられた担当について、責任をもって最後までやり遂げる責任感を身に付け、集団生活における責任感を養う。	2 通	16	1		○		○		○		
合計						36	科目	138 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 所定の課程を修了し、必須科目の単位を取得		1学年の学期区分	2期
履修方法： 単位取得については、6割以上の点数取得と80%以上の出席が必要		1学期の授業期間	14週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。